# News Release

公益社団法人鉄道貨物協会

2025 年 10 月 20 日

## 「第 1 回エコレールマーク表彰」 の表彰式を行いました

10 月 14 日、ザ・プリンス パークタワー東京で開催された第 32 回「鉄道の日」祝賀会にて、「第 1 回エコレールマーク表彰」の表彰式を行いました。エコレールマークが誕生して 20 周年を迎えた今年度より、エコレールマーク認定企業の功績を称えるため、国土交通省鉄道局長による表彰制度が新設されました。

表彰式は、「エコレールマーク優秀事業者賞」、「エコレールマーク特別賞」、「エコレールマーク大賞」の順に行われ、各受賞者に表彰状と表彰盾が贈られました。「エコレールマーク大賞」を受賞した株式会社ブルボンの吉田会長が受賞スピーチを行い、続いてエコレールマーク運営・審査委員会の苦瀬委員長が総評を述べました。

また、祝賀会にご出席されていた JR 貨物犬飼社長ほか、国土交通省鉄道局の幹部の方々からお祝いの言葉をいただくなど、エコレールマーク事業の記念すべき日となりました。

以上

表彰式の受賞関係者と
苦瀬委員長による記念撮影

各賞の受賞者

| 表彰の種類 | 認定企業名 |
|---|---|
| エコレールマーク大賞 | 株式会社ブルボン |
| エコレールマーク<br>優秀事業者賞<br>（50 音順） | 味の素株式会社<br>ネスレ日本株式会社<br>パナソニック エナジー株式会社<br>北越コーポレーション株式会社<br>郵船ロジスティクス株式会社 |
| エコレールマーク特別賞 | 日本通運株式会社 |

問い合わせ先　公益社団法人鉄道貨物協会　エコレールマーク事務局
〒101-0048　東京都千代田区神田司町２－８－４　吹田屋ビル４階
TEL：03-5256-0580　E-mail：Information_0577@rfa.or.jp

【表彰式の様子】

苦瀬委員長（左側）と受賞関係者の皆様（右側）

「エコレールマーク優秀事業者賞」を受賞した
味の素株式会社様

「エコレールマーク特別賞」を受賞した
日本通運株式会社様

「エコレールマーク大賞」を受賞した
株式会社ブルボン様

株式会社ブルボン　吉田代表取締役会長からの受賞
スピーチ（右後方：同社　稲田執行役員）

総評を行う苦瀬委員長

【「第 1 回エコレールマーク表彰」各賞の選考理由】

１．エコレールマーク大賞（１社）　・・・　株式会社ブルボン

エコレールマーク事業開始の翌年となる 2006 年に取組企業として認定を受けて以降、商品でも多くの認定を取得されており、「ブルボンプチ」「アルフォート」「ルマンド」などの主力商品へのマーク印字を積極的に実施しています。商品を通じて企業の環境対策を消費者に伝える姿勢が非常に優れており、マークの認知度向上に多大な貢献がありました。また、鉄道による輸送量や輸送区間も年々拡大しており、2022 年には自社専用の 31 フィート冷凍・冷蔵コンテナを導入。商品や商品キャラクターが描かれたそのコンテナは沿線住民や鉄道ファンからも多くの反響を呼び、宣伝効果の高い取り組み等が高く評価されました。

２．エコレールマーク優秀事業者賞（５社）

①味の素株式会社

エコレールマーク事業を開始した 2005 年の第 1 回運営・審査委員会で認定を受けた取組企業であり、長年にわたり積極的に鉄道利用を推進しています。それ以降、業務プロセスの見直しやリードタイムの延長など多くの取り組みにより、環境負荷低減やドライバー負担軽減、輸送の安定化につなげた点が評価されました。現在では 500 ㎞以上の輸送に対する鉄道利用比率が 90%以上という、食品業界での平均（50～60%）を大きく上回る水準となっています。

②ネスレ日本株式会社

2024 年 2 月から静岡貨物駅（静岡県）～百済貨物ターミナル駅（大阪府）間で、食品飲料業界で初めて中距離輸送（200～350km を中心帯に想定）の大規模な貨物鉄道輸送の定期利用を実現しました。その出荷地であるネスレ日本島田工場（静岡県）には入口にエコレールマークが表示された看板が設置されており、持続可能な物流システム構築に向けた広報活動にも意欲的であることが評価されました。

③パナソニック エナジー株式会社

自社で製造・販売しているエコレールマークの認定商品が 4 品目あり、商品カタログや子供向け工場見学冊子にエコレールマークの記事を掲載するなど、マークの認知度向上に貢献されました。需要に応じた定期的な輸送計画の見直しにより、トラックを含めた陸上貨物輸送における鉄道利用の比率が約 40%と高い水準を維持していること等が評価されました。

④北越コーポレーション株式会社

自社で 105 基所有する 20 フィートコンテナにエコレールマークを表示することで、関係者以外の消費者に対してもマークの認知度向上に貢献しました。通常片道輸送となる事例が多い中、同業他社とのラウンド輸送（大阪～愛媛間）や異業種（復路で小型自動車を積載）とのコラボによるマッチング輸送を実現し、鉄道へのモーダルシフトを積極的に取り組んできたこと等が評価されました。

⑤郵船ロジスティクス株式会社

海上・航空貨物輸送と陸上輸送を組み合わせることで、国内物流の中でも特に輸入貨物の鉄道利用による温室効果ガス(GHG)排出削減に貢献しました。自社内での周知の一環として、名刺へのマーク印字のほか、全国の営業担当者に対して「鉄道輸送における損益分岐点となる輸送距離」を明確化し、輸送モード選定の基準として活用する目的で社内の情報共有に努めるなど、荷主への鉄道利用訴求を意識した取り組みが評価されました。

3．エコレールマーク特別賞　・・・　日本通運株式会社

エコレールマーク協賛企業として認定された 2006 年以降、鉄道・内航併用の 12 フィートコンテナや大型トラックと互換性のある 31 フィートコンテナを中心した 1,500 基以上の自社所有コンテナにエコレールマークを表示していること、Web でオーダー・輸送状況把握・実績管理ができる「鉄道コンテナ NAVI」の活用、共同輸配送・ラウンドマッチングのコーディネート（特に異業種間の連携による効率化）など、総合物流企業のリーディングカンパニーとして、陸海空の輸送サービスを駆使したモーダルシフトを推進されたことが高く評価されました。